

平成 17 年 8 月 18 日
水 産 庁

第 2 期北西太平洋鯨類捕獲調査（沖合調査）の終了及び調査船団の入港について

1. 沖合調査の終了と調査船団の入港

本年度の第 2 期北西太平洋鯨類捕獲調査（沖合調査分）は、8 月 16 日をもって終了し、調査船団（調査団長：田村 力（財）日本鯨類研究所生態系研究室長）が、以下のとおり入港します。

- 調査母船「日新丸」（7,659 トン 小川知之船長以下 126 名）
入港：8 月 19 日（金）午後 1 時 宮城県石巻市
- 目視採集船「勇新丸」（720 トン 三浦敏行船長以下 20 名）
- 目視採集船「第一京丸」（812.08 トン 広瀬喜代治船長以下 23 名）
入港：8 月 22 日（月）午前 11 時 山口県下関市
- 目視採集船「第二勇新丸」（747 トン 松坂潔船長以下 19 名）
入港：8 月 22 日（月）午前 11 時 広島県瀬戸田町

2. 調査結果概要

（1）調査期間：平成 17 年 5 月 13 日（出港）～ 8 月 22 日（帰港）

（2）調査海域：三陸沖からカムチャッカ半島南方水域

（3）調査実施主体：財団法人 日本鯨類研究所

（4）本年沖合調査結果の概要：

ミンククジラは、カタクチイワシ、サンマ、オキアミ、イカナゴ、スケトウダラ等の魚介類を、海域や時期を変えて幅広く捕食しているが、今年はカタクチイワシの捕食が例年より少ない傾向がありました。

ニタリクジラ及びイワシクジラは例年通り、前者はカタクチイワシやオキアミを、後者はカイアシ類やオキアミなどの動物プランクトンに加えてサンマなどの魚類を捕食していることが確認されました。

マッコウクジラでは、沖合域で採集を実施した結果、中深層性イカ類や中深層性魚類を捕食していることが確認されました。

その他、昨年に引き続きシロナガスクジラ、ナガスクジラ、セミクジラ、ザトウクジラなどの大型鯨類を多数目視しました。

（参考）

鯨類捕獲調査は、国際捕鯨取締条約（IWC 条約）第 8 条を根拠とし、日本国漁業法に基づく農林水産大臣の許可により実施されている。

問合せ先：水産庁遠洋課捕鯨班 諸貫、大部、中村
代表：03(3502)8111 内線 7242
直通：03(3502)2443
<http://www.jfa.maff.go.jp/whale/indexjp.htm>